

1 日 時

令和6年1月19日（金）13：30～15：40

2 会 場

サンセール盛岡 1階ダイヤモンド

3 出席者（敬称略）

(1) 委 員

青柳禎久、岩館智子、亀田義治、佐藤美代子、武田伸一、玉懸隆一、  
千葉美佳子、中村利之、畠山大、半澤久枝、深作拓郎、森川静子

(2) 事務局

教育長 佐藤一男、教育局長 菊池芳彦、  
生涯学習文化財課総括課長 小澤則幸、文化財課長 佐藤淳一、  
学校教育室学校教育企画監 度會友哉、保健体育課総括課長 菊池勝彦、  
県立生涯学習推進センター所長 外館邦博、県立図書館長 森本晋也、  
県立美術館副館長 多賀聡、県立博物館副館長 工藤善彦、  
主幹兼生涯学習担当課長 菊池剛、上席文化財専門員 大沢勝、文化財専門員 千葉正彦、  
主任社会教育主事 三橋俊文、主任社会教育主事 松川仁紀、主任社会教育主事 高橋省一、  
主任指導主事 阿部勲寿、社会教育主事 阿部貴弘

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 協議
- (4) 閉会

5 協議内容

- (1) 令和5年度主要施策の実施状況報告及び令和6年度事業計画について  
生涯学習文化財課、学校教育室、保健体育課  
県立生涯学習推進センター、県立図書館、県立博物館、県立美術館、県立青少年の家、  
県立野外活動センターについて事務局一括説明（内容省略）

—質疑—

質問・意見なし

—休憩—

(2) 今後求められる施策の方向性について

テーマ「社会的包摂の観点に基づく生涯学習推進について」

【中村委員（議長）】

今後求められる施策の方向性について、テーマ「社会的包摂の観点に基づく生涯学習推進について」、これまで皆様に協議をしていただき、それを事務局が取りまとめ、資料として事前に送付している。皆様から御意見をいただき、さらに中身を充実したものにするため、たくさんの御意見をお願いしたい。

【亀田委員】

子どもたちの学びを支えていくためには、学校、地域、家庭の3つが同じ認識を持って対応していくことが重要である。今までもこのように取り扱ってきているところではあるが、より一層必要になってくる。まずは地域と学校が連携・協働した活動や参加促進等一層の拡充を図っていく。

コーディネートしていく人材の発掘が、各団体大変になってきているところであり、支援を図っていく必要があると考えている。

コロナ禍で2年間ほぼ活動ができなかった訳であるが、生涯学習に取り組むサークル活動や地域の活動がコロナ禍以前に戻っていない。コロナ禍以前と同様に活動するには時間がかかり、人数が集まらないところもある。機運を盛り上げていくためにもサポートが必要であると考えている。

【玉懸委員】

教育という名目と自分がついている仕事と一致しないような気がしている。知的障がい者のグループホームで働いており、身の回りの世話等を行っている。9人の方がおり、将来について気にかけている。様々な資料に知的障がい者と出てくるが、他の障がい者とは違うと感じている。他の障がい者よりもケアをもっと手厚くしてもいいのではないかと考える。もう少し色々な意味での保護が必要であると考えている。

【半澤委員】

方向性について、示していただいたもので良いと思う。

先日、医療的ケア児支援センターの方が活動を見学していった。普段は障がいのある方や医療的ケアが必要な方と触れ合う機会がなく、センターの方との話が勉強になった。県が様々な活動に取り組んでいることを理解した。

障がいのある方や医療的ケアが必要な方々にも目を向けていかなければ、誰一人取り残さないというところには結びつかないと実感した。

岩手県教育委員会で医療的ケア児のための進学、就学の説明会等に取り組み、学校への繋がり、就学の見守りも行っていることから、社会的包摂の取組の観点の方向性は現状の形で良いと思う。

【佐藤委員】

4 (1) 社会教育の方向性「社会教育の推進により、高齢者、障がい者等が孤立することがない

よう」という部分に産前産後の妊婦や産婦の人たちも孤立しないという視点が入ってくると良いと思う。

生涯学習の理念から、学びたいと考えている方々が学べる環境として、公民館を気軽に利用できるようになって欲しい。利用する際の料金、利用に関わる手続きの煩雑さの改善等、地域で集まり学び合える場所の確保のハードルを下げることが大事だと思っている。

#### 【中村委員（議長）】

学習したい、誰もが、いつでも、どこでもという生涯学習の理念からすると、そのような環境が整っていないように感じる。支援や援助が必要ではないかと感じている。

#### 【岩館委員】

方向性について、示していただいた通りであると思う。

家庭、地域、学校の相互理解が必要だと思うが、保護者が相談したい場合、先生方が多忙のため相談できないこともある。保護者の情報共有、子どもの情報共有を身近にしていくことが保護者の支援につながる。

4 (2) 学校教育の方向性に「学校現場でのインクルーシブ教育推進には、～（一部省略）」とあるが、大人も多様性であることを理解し合うため、様々な場所で周知できる環境、普段から広告などで目にすることができ、お互いが理解し合え、助け合える社会になってほしいと思う。

#### 【千葉委員】

4 (2) 学校教育の方向性については、全般的にこの文言で良いと思う。

「学校現場でのインクルーシブ教育推進には、～（一部省略）」とあるが、現状として現場の教職員は多忙かつ働き方改革の中で全面的に先生方をお願いするのは如何かと思う。この教職員の中に例えばスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、特別支援教育支援員との情報共有がとても大切だと思っている。

学校と地域、保護者との連携では、先生方だけではなくスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの方々、支援員の方々と情報共有があれば、保護者も相談できるのではないかなと思う。

インクルーシブ教育推進には、教職員と一緒に足並みをそろえ、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーのスキルアップも大切だと思う。それに加えて、学校に関わる地域のボランティアにも必要なことだと思う。その前段階として、地域コーディネーターにもスキルアップの養成講座、学習が必要なのではないかと考えている。

スクールサポーターの促進、配置についても、もう少し考えてもらいたい。先生方、家庭、保護者との共通認識の中で、力になってくれる存在がたくさんいることが、子どもたちの支えとなるのではないかなと思った。

#### 【武田委員】

学校教育の部分に入っているので、関連して話していきたい。

合理的配慮について、学校現場では以前から大切だということを特別支援教育等研修会で行っている。教職員の研修を行う際、個人の力量にかかる部分があることから、力量のスキルアップだけではなく、様々なサポート体制も重要だと思っている。

学校現場では、多様な家庭の状況があり、教育相談体制の充実については、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの存在が重要になっている。

子どもたちが合理的配慮を学んでいき、学校を卒業していった後の社会、職場等が合理的配慮を理解していないと学んだことが生かされないと思う。

#### 【青柳委員】

コミュニティ・スクールの導入状況について本県は進んでいるところであるが、中身についてはこれからだと思っている。具体的な取組をこれから進めていく中で、地域との連携が深まってくると思う。地域との連携が深まった取組を充実させていくことで、児童生徒の将来にわたる社会教育につながる取組がさらに増えていくのではないかと考えている。

インクルーシブ教育について学ぶ機会を1つ紹介させていただくと、現在、特別支援教育の推進プランを策定中である。現在、特別支援教育サポーター養成講座が特別支援教育担当にて実施されている。これまで障がい者と関わったことはないが、興味を示して来ていただいた方など、今年度30名の参加があった。2022年現在で356の方がサポーターとしてボランティアバンクに登録されている。登録された方々は、特別支援学校の行事等で手伝いに来ていただいている。活用と周知について課題はあると思っている。

今回の能登半島地震の避難を見て、災害時に弱者と呼ばれる障がいのある子どもたちが同じ避難所で過ごせない状況があった。東日本大震災の時にも同様なケースがあった。有事や災害時の対応については、その時だけということは難しいため、普段から社会の中で障がいのある子どもたち、特別支援学校を卒業していった方たちが一緒に生活していく環境が整うことにより、災害時でも一緒に過ごすことができ、障がいのある方に配慮ができる社会をつくっていけるのではないかなと思う。

#### 【森川委員】

学びの機会の提供、情報提供及び共有、連携協働、相談など落ちなく全ての部分が網羅されていると感じた。本県行政の方向性について良くまとめられていると思う。

学校教育制度だけに頼らない柔軟で多様な生涯学習社会の構築が望まれるというところが一番気に入った。

#### 【畠山委員】

専門が教育学なので、その視点から全体に関わることで話をする。

社会教育の方向性、学校教育の方向性、本県行政の方向性とすべて重要なことが記載されていると感じた。その一方で岩手県らしさが文言からは見えてこない。項目によっては全般的な傾向を指摘している形になっているのではないかなと思う。例えば(1)社会教育の方向性の3つ目の白丸を全国でも早く少子高齢化に直面している岩手県として、生涯学習の場づくりのモデルケースとなり

得るような企画が望まれるなど、岩手県だからこそできることを岩手県だからこそ発信できる構造というようなことが文言から見えるような書き方があると良いと思っている。

(2)学校教育の方向性の1つ目の白丸が異なる項目の内容が1つにまとめられて記載されているような印象を持った。後段、加えて以降の「特別支援学校から社会への引継ぎ資料となる～（一部省略）」は、非常に重要なことが記載されていることから、別立てにして表記したほうが強調されて良いと思う。

同じく白丸4つ目「生徒一人ひとりに寄り添い～（一部省略）」は生涯学習をもう少し前面に出した方が良いと思う。例えば、「進路指導等により」の後を「生涯学習の視点に立った長期的なキャリア形成支援、あり方を検討していくことが望まれる。」と修正すると、学校教育の中で生涯学習とどう関わるのかということが強調されると思う。

(3)本県行政の方向性に関わることで、資料4の生涯学習推進センターに記載がある生涯学習に関わる基礎的な情報の集約や調査、公表や発信などということも行政の非常に重要な役割かと思う。例えば「少子高齢化等の社会変化を踏まえた生涯学習推進に必要な基礎的な情報の集約、分析、発信を引き続き関連施設や関係機関と協力を図りながら行うことが望まれる」等、今まで取り組んできたことも引き続き実績として次につなげていくという明記があると良いと思う。

#### 【深作委員】

計画の展望のところ、岩手らしさが感じられない。例えば岩手県がどのような共生社会を目指しているのか、それをどのようにデザインしたいのかという部分が示されることで、具体的な計画になってくると思う。課題は出てきているが、岩手県としてどこに向かっていくのかが分かりにくい。岩手県で今、何が課題になっているか、もう少しリアリティが出てくると良いと思う。例えば病児ケアという部分に関して、岩手県はすごく遅れているように感じる。社会的包摂という視点で言えば、外国籍、外国にルーツのある子どもたち、その家族へのサポート等の視点があると、そのような人たちにとっての暮らしやすさ、あるいは暮らしづらさ、学びづらさのようなものが岩手県として打ち出されるともっとより良い展望があり、課題があり、それを克服するための計画となっていくのではないかと思う。

最後に提案ですが、(2)学校教育の方向性には記載されているが、共生社会を作っていくために一番大事なのが相互理解を図っていくことである。そのためには人権教育、人権とまで堅い言葉では言わなくても相互理解が図り合えるような学びの充実が必要だと思っている。また、社会に出てからの合理的配慮をどう促進していくかというのも重要なテーマだと思っている。これは学校教育だけではなく、社会教育で広く相互理解を図る必要がある。外国籍、障がいがある方々を含めた相互理解を図っていくためには、人権教育というのが大事だと思う。そのためにも人権教育を学校だけではなく、社会の学びをもっと豊かにしていく必要がある。広く地域で社会の学びを起こしていくという視点を盛り込むことで岩手らしい共生社会を目指した社会的包摂と社会教育、生涯学習の推進につながっていくと思った。

#### 【中村委員（議長）】

何人かの委員から岩手らしさが見えないという御発言がありました。例えば、教育振興運動は岩

手を代表する運動として60年になろうとしております。そこに何か掲げられれば様々なものが寄り添っていける感じがする。包摂社会において、その中で生涯学習の新しい柱のようなアイデアがあれば出していただきたい。

インクルーシブと言っても、初めて聞いた方もいるかもしれない。そうすると、広報活動など何かもっと周知を図っていかなくてはいけない。

#### 【亀田委員】

今年、インクルーシブスポーツで卓球バレーをしており、県大会を開催する活動を行っている方で、足の不自由な方を講師にして、高校生に体験を聞かせる企画を実施した。ボランティアの学習もできる機会として、グループワーク形式で進めた。このような学習の形式で進めると、心の垣根が外れやすく、足の不自由な方の体験を身近に感じて聞くことができた。障がいについて理解しやすい環境だと感じ、学習の場や方法が大切だと思った。学校のカリキュラムの中では中々難しいので、このような機会を作っていくことも重要になると感じた。

インクルーシブという言葉については、研修等を通して理解しているが、普段から実践しているかと問われると教職員が多忙であり、日々様々なことが起こるので難しいと感じている。

#### 【千葉委員】

「インクルーシブ」という言葉は、言葉だけが先行しているのではないかと感じている。情報誌とまではいかなくとも、インパクトのあるような情報発信をし、講座等も開かれると良いのではないかと思う。

岩手らしさという部分は、地域性を表に出し、岩手ならではの取組があると県外にも発信で良い。

#### 【青柳委員】

新たな流れをこれから作るというのは大変だと思う。既存のもので岩手らしいものは何かと考えると、復興教育が思いつく。震災を経験し、復興教育に学校は取り組んでいる。以前勤務していた学校では、近隣の中学校や隣にある警察学校と一緒に防災学習を実施したこともある。復興教育は岩手でまだまだ大事にしていかななくてはならないものだと思うし、岩手らしさが出てくるものだと思う。

#### 【森川委員】

確かに復興教育は全国に発信しており、世界にも発信している。岩手の蓄積した知恵やノウハウ等、様々詰まっているものであることから、社会的包摂の観点に基づく生涯学習、社会教育の基盤として位置づけられると良い。

教育振興運動は、人々の繋がりについて非常に力のあるもので、他県で真似しようと思っても岩手のような力強い運動の展開にはならないと見ている。方向性の中に加味できればとても良いと思う。

#### 【半澤委員】

県医療的ケア児支援センターのチラシに「岩手に生まれてよかった」と書いてあり、とても良い言葉だと思った。復興に関わって、「結と絆」のようなところが岩手らしさという印象を持っている。

#### 【中村委員（議長）】

「岩手に生まれてよかった」という言葉を見えるものにしていかなくてはいけないと思う。人口減少の中において、増加している場所の様子を聞くと、子育てするのに様々な条件がそろっているなど、魅力的なものがたくさんある。方向性としてたくさん書いているが、見えるものが何か整理することが課題である。

#### 【島山委員】

理念がないまま方向性が書かれているような気がする。方向性に沿って進んでいった先に岩手県として生涯学習社会をどのように実現したいのかという理念が見えてない感じがする。このような理念のもとで、このように進めていくというものがあると良い。方向性の下の部分に理念がまとまっていると、この理念に向かって、このように方向性を考えたというのが見えるようになると良いと思う。

インクルーシブという言葉1つをとってもそうだが、岩手としてインクルージョンをどう考えるのか示す必要があると思う。先ほどから様々なキーワードが出てきており、例えば相互理解、人権尊重等、キーワードの繋がりの中で、岩手県としてインクルージョンの問題をこのように考えていると示されることが文書においては大事だと思う。

#### 【佐藤委員】

岩手らしさと聞いて思い浮かべたのは若い女性が少ないことである。ジェンダー比率は半々なのだろうが、この会議の事務局には男性が多い。PTAや教育現場は女性が進出しやすいが、普通の会社だと女性の社長はまだまだ少ない。結婚、妊娠出産を機に会社を辞める方が多い。女性の社会進出の比率を高めていけると良いと思う。

#### 【岩館委員】

岩手の人は岩手で生まれて、岩手でずっと育ってきており、自ら学ぶというのが苦手なのではないかと感じている。例えば電車やバス、公共施設にインクルーシブについてイラストとともに広告があれば学ぶきっかけになるのではないかと思う。相互の理解を図り、お互いが助け合えることにつながると思う。

地域はやはり学校が中心であり、子どもに関わる研修を受け、学校に入ってサポートできるような、地域の方が足を運びやすい学校教育ができれば良いと考えている。行政の方で働きかけて実現してほしい。

#### 【深作委員】

岩手県が目指す、例えば共生社会やインクルーシブとは何かというのがなければ具体的な計画になつてこないと思う。岩手県が今抱える課題は何か、持ち味は何かといった時に重要な要素が出てきている。教育振興運動と復興教育がベースだと思う。これまで蓄積したものの成果と課題を明らかにしていくことが大切である。

今回の会議で、社会的包摂という切り口で生涯学習社会をどのように実現していけば良いか、道筋が見えてきたと思う。キャッチフレーズは「岩手で生まれてよかった」、「岩手で育つてよかった」になるのではないかと個人的には思っている。

#### 【中村委員（議長）】

見えるところの政策に結び付く、その一歩手前ぐらいまで表現に入ってくると今回のまとめとして良いと思う。

現代社会は情報化社会で多くの情報が氾濫している。情報を見ているようで見ていない。自分が欲しい情報は、アンテナを立て情報として取り込むが、それ以外は記憶にも残らない。情報を得ようとするアンテナを多く持つことが必要だと思う。得た情報を整理することで、新しい学習が始まり、それに対応していく。

インクルーシブな教育と言われ、どのように対応していくのか、講座が話題に挙がったが、参加した人が増えればアンテナが立ち、広がっていくと思う。一つの経験の中から自分が別な所に行った時に支援の仕方や対処の仕方が変わってくる。だから学習機会は必要であり、学習を提供する側の資質向上も必要である。一生涯の学習の推進を図っていかなくてはいけない。

生涯学習という言葉が定着したと思われているところもあるが、新たな見方で生涯学習の取組が求められていると思っている。様々な形の支援体制が必要な部分もある。カウンセラーなど人的に必要なところもある。資質向上のための研修も求められており、行政としてはその体制をどのように作っていくのか、社会に出たときの受け皿をどのように準備していくのかということが県民に見える形で提示されれば、その人の人間性の幅が広がってくると思う。

これから事務局等で整理をしていただき、まとめてほしい。

#### 4 閉会